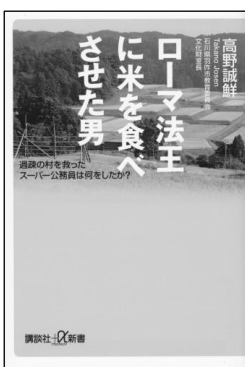


# 「読書の秋」におすすめの本

読書の秋。毎年11月号の恒例、「わいわいタイムス」編集部がおすすめる本の紹介です。秋の夜長に、ぜひ読んでみてください。

◎ローマ法王に米を食べさせた男（高野誠鮮・著 講談社 プラスアルファ新書）



TBS系列のテレビ局でこの夏に放送されたドラマ『ナポリオンの村』（主演・唐沢寿明さん）の原案になった作品。石川県羽咋（はくい）市役所に勤務し、限界集落といわれた神子原（みこはら）地区を、数々のアイデアと行動力で見事にみがえらせたスーパー公務員・高野誠鮮（じょうせん）さんの著書。自らがどんなことを考え、どう動いたのか、さまざまな実例をあげてくれています。

上関町の活性化にも役立つような話題が満載。町役場の方にも、町民の方にもぜひ読んで欲しい一冊です。

◎幕末まらそん侍（土橋彰宏・著 角川春樹事務所 ハルキ文庫）



幕末、黒船来航により騒然となっていた安政二年。上野（こうづけ）国（今の群馬県）安中（あんなか）の藩主・板倉勝明は、50歳以下の藩士全員に、心身鍛錬のため七里

余り（約28キロ）を走る遠足（とおあし）を申し付けました。これは「安政の遠足」と呼ばれ、日本のマラソンの発祥と言われています。

ライバルとの戦いに燃える男、好きな女のために脱藩を企てる男、幕府の隠密として生きてきた男など、悲喜こもごもの事情を背負って遠足に挑む侍たちの人生を描く、涙と笑いの痛快スポーツ時代小説です。

◎離島の本屋（朴順梨・著 ころから）



はじまりは「LOVE書店！」というフリーペーパーの連載。北は北海道・礼文島から、南は沖縄・与那国島まで、22の「離島の本屋」を巡る旅の現地報告が1冊の本になりました。

島に必要なサービスを続ける本屋さん、自宅の一室だけの本屋さん、それぞれの島に応じた形の本屋さんを紹介する著者の報告とともに感動が伝わってきます。

「あの時、その後」として、各々の本屋さんに連絡をしてみると、残念ながら、なくなってしまった本屋さんもあれば、変わりのない本屋さん、後継者ができて続けている本屋さんもあり、それぞれのドラマが展開されていたことも報告されています。

山口県の「離島の本屋」としては、周防大島の「つるや鶴田書店」が紹介されました。ここには、同じく周防大島を拠点とされている「みずのわ出版」さんの発行されているシリーズも置いてあり、民俗学者・宮本常一コレクションが書棚を占有し

ているそうです。上関町からでも近いので訪ねてみたい本屋さんです。

◎山口あるある（タキガフマミ・著 TOブックス）



「今も昔も、山口には『ぶちすい』がいっぱい！」と、山口県出身の著者が、簡潔ながら楽しく、しかも見事に「お国自慢」してくださっています。

小さな町のことから歴史的偉人のことまで、さまざまな話題を掘り起こされているので、フムフムと読みながら、妙に嬉しく感じるのは、やはり自分も山口県出身だからかな、と納得してしまいます。

知ってること、知らないことも次々に出てくるので、いつの間にかあなたも「山口ものしり博士」です。

◎鴨川食堂（柏井壽・著 小学館文庫）



京都のしもた屋（看板を外した店）で料理店「鴨川食堂」を営む父娘のもう一つの顔は、「鴨川探偵事務所」。

依頼人の「食の記憶」を頼りに、その味を再現するべく繰り広げられる料理人の鮮やかな手さばきが気持ちいいです。

また、並べられた料理が目には浮かぶような文章に、思わずお腹の虫が騒ぎそうな感じ。読み終えた後、お腹は空きますが、心は満たされる・・・そんな小説です。

続編の「鴨川食堂おかわり」も発行され

ています。

◎50過ぎたら、ものは引き算、心は足し算（沖幸子・著 祥伝社 黄金文庫）



人生の終わりをより良いものとするため、事前に準備を行う「終活」と言言葉も聞き慣れてきた昨今ですが、山口県内で百歳以上の高齢の方は470人を超えていると言われます。そのちょうど半分、50歳を過ぎたら、そろそろ余計なものを切り離し、その分、心を豊かに軽やかにしておくのがよいと、著者の今までの経験から、ゆったりと話して聞かせてくださっている本です。

「汚れる前に掃除しなさい」と言う話は、目からうろこ状態です。無理のない暮らし方で楽しい毎日が暮らせるヒントが満載です。

最近、どんどん本が読まなくなっているそうです。電車の中でも、本を読んでいる人は珍しく、ほとんどの人がスマホの画面を見ているとか…。インターネットの普及で、本を読まなくてもさまざまな情報を入手することができるようになったとはいえ、人間の成長や、想像力を養うのに、本はとても役に立ちます。ぜひ読書にこそしんでください。

上関町総合文化センターの2階に新しい図書館も出ていますので、まだ利用したことのない方は、行ってみてください。



◎「わいわいタイムス」12月号は12月6日（日）発行予定です。